

令和 6 年（2024 年）度 産学官・地域連携活動報告書

連携先名称：株式会社ウェザーニューズ

協定締結日：平成 27 年 12 月 11 日

活動状況：継続中

連携先窓口：陸上気象事業部 戸部 明

活動資金：アイテムを選択してください。

担当教員（所属）：鈴木伸治（地域環境科学部 生産環境工学科）

活動体制（単位）：大学

関連教員（所属）：馬場 正（農学部 農学科）

活動目的：農業及び関連産業の活性化に貢献しうる活動を展開すると共に、農業開発への支援を通じた国際協力活動を展開することにより、地球的規模での食料・環境問題の解決に貢献すること。また、この連携を通じて国内外で活躍する人材の育成に努めること。

活動内容・成果：

（１）農業及び関連産業の活性化に向けた連携

・産学・研究連携座談会の開催（令和 6 年 7 月 23 日、国際センターカンファレンスルーム 2 および web 会議のハイブリット開催）（添付資料参照）

<目的>

産学レベル、研究レベルでの連携の発展を目指し、ニーズとシーズのマッチングを意図すること。

<成果>

ウェザーニューズ社からは 3 名の参加、本学及び東京情報大学から 20 名以上の参加があり、活発な議論が交わされ、本学及び東京情報大学から示された多くのニーズに対し、マッチングの可能性が示された。さらに座談会后、希望者に対して個別のディスカッションが行われた。

（２）農業開発への支援を通じた国際協力活動における連携

当年度は活動なし

（３）人材育成に関する連携

当年度は活動なし

(4) その他両社の協議により必要と認める連携

- ・農業気象災害や学生の通学への影響軽減に向けて提供していた気象観測のリプレイス。

- ・従来設置していた小型レーダー観測システム（CASA レーダー）を撤去し、高性能既報 IoT センサー（ソラテナ）を研究棟屋上に設置し観測を行った（令和 6 年 7 月 23 日、添付資料参照）。また、これらの観測結果の蓄積と検証を行った。

<目的>

作物や施設に影響が見込まれる局地的な異常気象を早期に発見し、農業気象災害や、学生の活動への影響を低減するための一助とすること。

<成果>

1. 研究棟にモニタリングシステムを設置し、教職員、学生に研究の主旨、及び観測結果を踏まえたリアルタイムな気象予測の共有が可能な場を設けた。
2. 厚木キャンパス周辺における異常気象発見の早期化や労力削減に応用でき、熱中症対策等における貴重な観測情報となった。

課題・改善点：

- ・活動内容（1）～（3）については、双方での情報交換をより密に行い、目的に応じた提案や成果共有を行うと共に、学生との交流の場（気象情報を通じた講義や就職支援等）を設けていくことが必要である。

- ・活動内容（4）について、雨/雪/雹など局地的現象の早期発見や熱中症対策には、現地付近の温度/湿度/風等の把握が重要であり、小型観測器による観測継続と分析を進めたい。